

○○今月の話題○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○NO.126○○○○



火星大接近

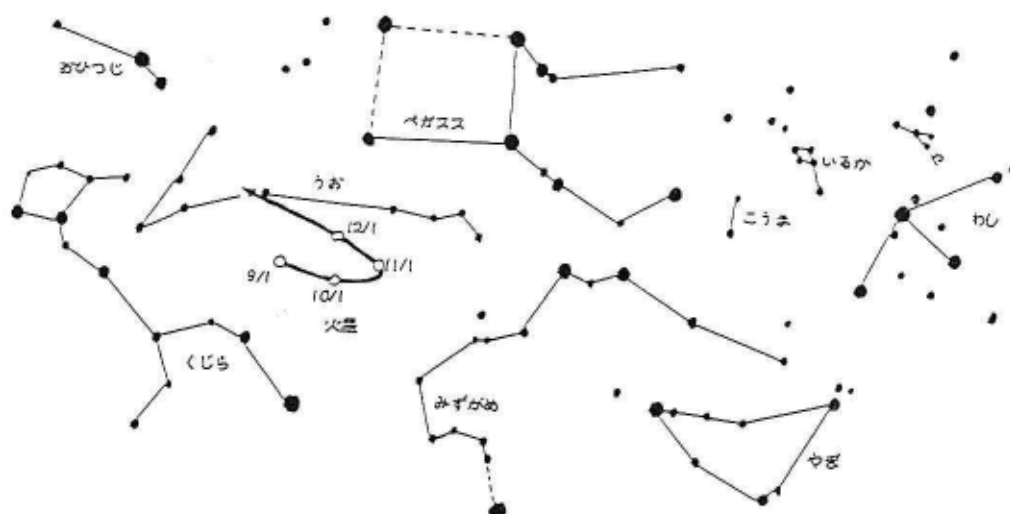


9月22日 大接近 (前後1ヵ月が見ごろ)

今年の秋は、火星が17年ぶりに地球に大きく接近します。地球と火星の動きから、だいたい2年2ヵ月ごとにおたがい接近するのですが、地球の軌道がほとんど円を描いているのに対して、火星の軌道は「だ円」を描いているため同じ接近でも、その距離がずいぶん違ってきます。

最も近い接近では5,600 万Km離れていますが、最も遠い接近になると 1億Km以上も離れてしまいます。今回は 9月22日に5,881 万Kmまで接近します。前回の1971年には5,620 万Kmまで接近しました。次は2003年に5,600 万Kmまで接近します。このように大接近は15～17年ごとに起ります。

今年の火星は、秋の代表的な星座ペガサス座の南にある「うお座」にいます。赤い色をした明るい星なので、すぐ見つかると思います。



秋の星座と火星の位置

火星にはフォボス、ダイモスという二つの衛星があります。このうちのフォボスと火星の調査のため今年の 7月 7日と 7月12日に、ソ連の火星探査機フォボス 1号、2号がそれぞれ打ち上げられました。

フォボスはジャガイモのような形をしていて、一番長いところでも27Kmしかない小さな衛星です。なぜこんなちっぽけな天体を観測しようとするのでしょうか？

太陽系が誕生した46億年前、無数の微惑星ができたといわれています。それらの多くのものは惑星を作る材料になりましたが、一部は小惑星や、いん石として残りました。これらに似ているフォボスが太陽系のできたころの様子を知らせてくれるのではないかと期待されているのです。

初め火星の観測をした後、来年の 4月ごろフォボスに接近して観測する予定です。そのとき探査機はフォボスの上空わずか30～80mをゆっくり移動しながら、表面の物質を調査します。また探査機からは、フォボスに着陸してその軌道を精密に調べたり表面の振動を調べたりする装置と、バネの力で飛び回り磁気などを調べる装置が切り離されます。これらはいろいろな情報を私たちに与えてくれることでしょう。（吉村博儀）



富山市科学文化センター

富山市西中野町1丁目8番31号（〒939）

電話 富山(0764) 91-2123(代表)

昭和63年9月1日発行

富山市科学文化センターでは、星空のテレフォンサービスをしています。いろいろな星のお話が聞けます。 ☎(0764) 31-0199